

令和4年度 杉原谷小学校 学校評価シート

学校教育目標

いのちと人権を大切にし ころ豊かにたくましくのびる ふるさと大好き 杉小っ子の育成
～自分・友だち・学校・ふるさと、みんな大好き杉原谷小学校～

本年度の重点目標

- 1
- いのちの大切さと人権尊重の精神を基盤にした、学校経営の推進
- 2
- 当たり前に取り組み丁寧にやりきる学びの継続と「対話的な学び」に主眼を置いた、深い学び・生活に生きる学びにつながる授業の創造
- 3
- 人・もの・こととのふれあいを通じ、ふるさとを誇りに思う心や将来の夢を育む「ふるさと教育」「キャリア教育」の推進
- 4
- 学校と家庭・地域が一体となって子どもを育む、安全で安心な学校づくり

学校自己評価（達成状況）【A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】							学校関係者評価
観点	項目		取組（上段）と達成（下段）の状況	評価	総合 評価	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策 の適正さの評価
豊かな心の 育成	「心の健康教育」の推進	1	学期に一度の心の健康教育の実施、1学期と2学期にストレスチェックの実施計画通りに実施できた。	A	A	・単発的な授業になっている。 ・普段の生活でも授業で行ったことが活かせる内容にする。また、担任の先生方と授業を作っていく。 ・来年度も児童会役員と3年生以上の学級委員によるあいさつ運動を推進していく。 ・挨拶がどんな場面でもできるように、その意義や価値を児童会が中心となり発信していく。 ・毎月続けていくことに意義がある。さらなる人権意識の深まりを目指して今後も続けていく。 ・児童や保護者に対して、心あたたまる内容のほかほかカードを知らせる方法を更に工夫する。 ・年1回全学年保護者への道徳授業の公開を続ける。 ・授業を公開・交流し合い、授業力の向上に努める。	○あいさつの表彰等の取組がよい。 ○ほかほかカードの掲示物等の取組がよい。学校便りでもさらに広げていってほしい。 ●もっと元気な声であいさつできるとよい。
	「あったかあいさつ運動」の推進	2	児童会と3年生以上の学級委員によるあいさつ運動の実施 概ね気持ちよく挨拶できているが、形式的になっている部分や個々のばらつきが見られた。	A			
	人権教育の充実	3	毎月のほかほか週間の取組、人権集会の実施 人権集会で各学年の取組を全校生で共有し、人権について考えることができた。	A			
	道徳教育の充実	4	教科書及びノートや副読本（心シリーズ等）の活用、週1時間授業の確保 年間指導計画に基づき、教科書及びノートや副読本を活用して授業を行い、週1時間を確保した。	A			
確かな学力 の育成	学びの土台作り	5	当たり前に学び、最後までやりぬく姿勢の涵養 当たり前に学び、最後までやりぬく姿勢が定着している。	A	A	・「当たり前に取り組み、最後までやりぬく姿勢」という学びの姿勢、学習規律の徹底を今後も継続して鍛えていく。 ・「その日の課題はその日のうちに」を今後も実現していけるよう、全職員で意思統一し、組織的に取り組んでいく。 ・教師間の授業相互見学を来年度も行い、学級経営や授業技術、思いを交わらせることで、教師としての力量を高める。 ・思考の深まりを意識した対話場面を設定し、見通しをもたせた授業づくりを今後も行っていく。 ・回数や各学年の取組内容について精査することや、指導方法を共有することを通して、速読解の質を向上させていく。 ・1年間の成果をどう評価するのか、研修を重ね、検討していく必要がある。	○学力向上の取り組みをしっかりと進めてもらっている。 ○読書活動が活発に行われている。 ●「書く活動」を重視して行ってほしい。 ●自主学習の取り組みに力を入れてほしい。 ●宿題として、読書がある
	深い学びにつながる授業づくり	6	「杉小授業モデル2022」の共通理解と実践 授業の流れを示すことで見通しをもって取り組むことができた。	A			
	課題克服に向けた朝学の充実	7	読解力向上に向けた、速読解トレーニングの実施、点検行事等で抜けることもあったが、週に2回取り組み、読むことになれてきている。授業の研修もできた。	B			
	家庭学習習慣の確立	8	チャレンジ家庭学習強化週間（学期に2回）の実施 学期に2回、計画通りに実施できた。自主学習ができる児童が増えている。	A			
健やかな体の 育成	読書活動の充実	9	学校図書館アドバイザーとの連携・家庭読書推進・団体貸出、教職員や委員会からの読み聞かせ実施 家庭読書が9割以上達成し、学校図書館アドバイザーやボランティアとの連携で読書環境が向上した。	B	A	・今後も団体貸出・読書週間・読み聞かせに取り組み、読書習慣の定着を図る。アドバイザー等と連携し、読書環境の向上に努める。 ・図書室の利用は伸びているが、その姿が見えにくいことに課題がある。継続して「家庭読書」を実施し、啓発を図る。 ・体育の授業以外の時も児童自ら体育ノートを活用できるように推進していく。 ・体育ノートの中身を見直したことで、児童が取り組みやすい競技や内容になり、自主的に活用できるようになった。 ・コロナ禍ということもあり、団体での競技が上手くできなかった。しかし、体力アップサポーター推進事業を通して、新しい競技を知ることができた。また、いろいろな体の使い方を学習することができ、次へ活かすことができた。 ・コロナ禍3年目になり、新たな指導はできていないが、基本的な予防は身に付きつつある。 ・感染症予防は誰もがよく知っている。それを行動に移せるように、ちょっとした工夫をしていく。 ・リアルタイムに必要な情報を発信していく。 ・児童が興味をもてる掲示物の作成、保護者が読みたいくなるほけんだよりを作成していく。 ・今後も「食に関する指導計画」に基づき、発達段階に応じた系統だった指導を続けていく。 ・マスク、フェイスシールドなどを用いて感染拡大防止に努めながら、実習等に工夫して取り組んでいく。	●コロナ禍において、特に泳力が心配である。 ●体のバランスや健康と運動能力の向上、食についての学習会等があればよい。
	体力づくりに向けた取組	10	体育ノートの活用と体育の時間の杉小サーキットの実施 体育ノートを活用することで1年を通していろいろな種目に取り組み、体力アップを図ることができた。	A			
	芝生の特性を活かした授業づくり	11	タグラグビーやベースボール型などの新種目を実施 体力アップサポーターの指導を受け、新種目を知り、児童がより体を動かす環境をつくることができた。	A			
	感染症に対応した生活様式の確立	12	児童が主体的に感染予防ができる指導の実施 換気機を作るなど、委員会児童が横のつながりから啓発をした。	B			
生活指導 の充実	健康情報センターとしての役割	13	《今》必要な健康情報を発信する「ほけんだより」・掲示等 ほけんだよりの随時発行や児童が興味をもてる掲示物の作成をした。	A	B	・児童が興味をもてる掲示物の作成、保護者が読みたいくなるほけんだよりを作成していく。 ・今後も「食に関する指導計画」に基づき、発達段階に応じた系統だった指導を続けていく。 ・マスク、フェイスシールドなどを用いて感染拡大防止に努めながら、実習等に工夫して取り組んでいく。	○児童の話をよく聞き寄りそった指導をしてもらっている。 ●今のアンケートでは、本音が出せないのではないかな。
	自己改善に繋がる食育の推進	14	「食に関する指導計画」に基づき、外部講師や機関と連携した系統だった指導の実施 栄養教諭や外部講師と連携して指導した。調理実習など感染拡大防止のため実施が困難な活動もあった。	A			
	いじめの未然防止と早期発見	15	学校生活相談シートやストレスチェックによる実態把握と、校務支援ソフトによる情報共有 相談シートやストレスチェックは計画通り実施したが、情報共有をさらに密に図っていきたい。	B			
	いじめの早期解決	16	管理職・生活指導担当を中心とした、いじめ対策委員会とケース会議の実施 生活指導委員会やいじめ対策委員会、ケース会議を随時開催し、早期発見だけでなく未然防止にも努めた。	A			
ふるさとを 愛し、夢を 抱く児童の 育成	杉原紙学習の推進	17	杉原紙制作のための工程や歴史についての体験学習および展示物の作成 制作工程や歴史について知り、伝統を感じる体験学習ができた。	B	A	・アンケート等を実施する時期を考え、実態把握はもちろんのこと、アンケートがよりよいものとなるようにしていく。 ・校務支援ソフトの活用を活発化させ、情報を点から線にするとともに、情報共有できる時間（職夕等）をしっかりと確保する。 ・月一回の生活指導委員会やいじめ対策委員会の開催を継続し、組織で考え対応していく。 ・問題行動等、情報があがってくれば、管理職や生活指導担当がリーダーシップをとり、迅速にケース会議を行う。 ・6年生は2学期後半、総合的な学習の時間ばかりになってしまったため、計画的に実施していく。 ・1～5年生は道具や材料の関係から、2学年で実施していくことも検討していく。 ・環境体験や福祉体験の実施時期に偏りがないように、いつ、どこで、どんな学習をしたのかカリキュラムを作成し、更新していく。 ・さらなる地域とのつながりを考え、持続可能な新たなテーマ等を考えていく。 ・ふるさと検定は、自分たちの住んでいる地域の歴史や自然等について知るよい機会である。今後も継続して取り組んでいく。 ・講師先生を迎えて話を聞いた。校外に見学に出かけたりするなど、体験的な理解を伴う活動を取り入れていく。 ・今後もキャリアパスポートへの記入だけでなく、各行事の後や学期末、学年末に振り返りをさせ、新たな課題発見や学習活動への意欲につなげていく。	○ふるさと教育をこれからも継続して行ってほしい。 ●杉原紙の体験では、保護者や地域との交流をしてほしい。
	総合的な学習の時間の充実	18	環境教育・福祉教育など地域に根ざした教育の実施 地域の方が講師として指導することで、地域と連携した総合的な学習ができた。	A			
	ふるさとカリキュラムの有効活用	19	全校生と保護者を対象にしたふるさと検定の実施 全児童にICT機器を活用し検定を実施した。保護者へは約8割の家庭で実施・回収し、検定証を配布した。	A			
	キャリア教育の推進	20	キャリアパスポート前期分・後期分の記入 目標をもって学年をスタートし、その目標についてのふり返りを10月初旬に行い、次年度へつなげた。	A			
防災・安全 教育の充実	適切な防災・安全指導	21	校内安全点検・登下校指導・避難訓練の定期的な実施 初めて不審者対応の避難訓練を実施し課題が見つかった。落ち着いて速やかに避難する態度を育てた。	B	B	・残留者の想定などで教師の具体的な動きを確認する訓練や、児童が主体的に考えて取り組むことができる訓練を実施していく。 ・校内安全点検の形骸化を防ぐため、複数の目で確認する機会を設ける。 ・PTAのあいさつ運動と危険箇所マップの配布は継続して行っていく。 ・見守りボランティアの会議を開催し、課題点を洗い出し、更なる充実を図る。	●校門の施設を徹底する。 ●かみつきサポート依頼を全戸配布する。
	PTA・地域人材との連携	22	PTA活動の推進と見守りボランティアの組織拡充・連携 PTAのあいさつ運動は年間2回実施できた。見守りボランティアの会議が実施できなかった。	B			
特別支援 教育の充実	個別の支援・指導計画の適切な実施	23	支援を要する児童の課題・実態把握と適切な個別の支援・指導計画の実施 専門家を招き、助言を得た。教師間や保護者と連携して児童の実態把握に努め、合理的配慮を心がけた。	A	B	・今後も、支援を要する児童の実態把握に努め、個別の指導計画をたてるとともに、適切な支援を続けていく。 ・専門家の助言を参考に、教師間・保護者と連携して支援体制を整え、より適切な支援につなげていく。 ・全ての児童が安心して学校生活を送れるように、思いやりのある集団づくりに取り組む。 ・違いを認め合い、誰もが学びやすいユニバーサルの視点のある環境づくりを進めていく。	○個に応じた丁寧な指導をしていただいており、成長を感じる。
	インクルーシブ教育の推進	24	全ての児童が過ごしやすい学校を目指した合理的配慮のある教育の推進 個々の違いを認め合う集団作りとともに、誰もが学びやすい環境づくりに取り組んだ。	B			
情報教育の 充実	Chromebookの有効活用	25	思考の共有や表現を支援するツール、または思考を深めるツールとしての活用 思考を表現し、共有する機会があったが、深めるツールとしての活用は不十分だった。	C	C	・思考の深まりにつながる活用ができるように、研修会を開き、教師が有効的な活用方法を身につける。 ・知識・技術の習得に向け、計画的に活用場面を設定していく。 ・より専門的な学習につながるように、年に1回程度で講演会を実施していく。 ・年度当初に決める「きまり」をふり返る機会を確認する機会を各学期に設けていく。 ・学習する時期が一つに集中しないように、日々の中で継続して活用していく。	●家庭との連携が重要である。 ●情報モラル学習会を保護者も交えて定期的に開催してほしい。
	情報モラルの育成	26	インターネットの活用における留意点および、向き合い方の確認 各学級での指導はできたが、専門家による講演会を行うことができなかった。	C			
	プログラミング教育の推進	27	ビジュアルプログラミング（scratch・WEDO）を活用したプログラミングの思考の育成 「学習」が「体験」で終わってしまうことで、興味や関心を高めただけになってしまった。	C			
信頼される 学校づくり	保護者・地域の要望への対応	28	学校便りの返信欄や、行事ごとのアンケートによる保護者の要望把握、迅速な対応 保護者の意見に対し、適切な対応を行った。行事ごとの保護者へのアンケートの実施はできていなかった。	B	B	・学校だよりの返信欄を活用して、行事等への意見の吸い上げに努め、保護者の思いに沿った教育活動の推進に努める。 ・要望に対して迅速に回答を伝え、理解を得るように努力してきた。今後も真摯な態度で誠意をもって対応していく。 ・ホームページ、学校便りによる情報発信の内容を、より充実させていく。 ・行事予定のお知らせ時期をできる範囲で早めるようにする。 ・学校として地域の方に協力していただきたい内容について、学校運営協議会で協議を行い、実施を目指していく。 ・学校運営協議会の機能的な組織づくり、委員会の充実に努める。	●行事予定や下校時刻変更の連絡等を早くほしい。
	積極的な公開、情報提供	29	ホームページを週に2回更新。更には、学校便りやメールによる、情報の確実な提供 ホームページの更新は、ほぼ週に2回の割合で更新した。学校便りも、月1回の発行を行った。	B			
	コミュニティ・スクールの設置	30	コミュニティ・スクール導入と計画的な組織づくり(学校評議員との連携) 1学期に第1回の学校運営協議会を行った。運動場の芝生化についての動画作成を行った。	B			